

青少年交流事業

室町時代「東の天明、西の芦屋」と呼ばれ、一世を風靡した「芦屋釜」と「天明釜」。この二大名釜のひとつ、天明釜のふるさである栃木県佐野市との青少年交流事業が、今年で26年目を迎えました。今年、佐野市の小中学生20人を迎え、芦屋町の小中学生13人とともに、「子どもサミット」や「鋳物印かんづくり」などで交流を深めました。



栃木県佐野市との青少年交流事業 in 芦屋町 (8月7日～9日)

子どもサミット

芦屋東小学校6年 本武海璃
芦屋町、佐野市の皆で、自分たちの住んでいる町や市について発表しました。僕たち1班は、芦屋町ならではのいいところ、イベントや観光スポット、芦屋町でとれる魚介類や野菜、芦屋名物の食べ物、特産品、おみやげ品などのことをまとめました。そして、佐野市のいいところや、歴史も知ることができました。この子どもサミットで、改めてお互いの町や市を知ることができたので良かったです。



お互いの市町を紹介

交流プログラム

芦屋中学校1年 松本優志
交流プログラムでは最初に爆弾ゲームをしました。罰ゲームは見ている皆が爆笑していました。

新聞タワーは、ガムテープと新聞紙を使って、ほかのチームよりも高くタワーを作るというゲームで、終了の合図がかかった時はちゃんと自立していた物も、なぜか審判

が見に来た時に急にヘナッと倒れたりして意外な結果になりました。



レクリエーションで交流

ライフセーバー教室

芦屋東小学校6年 高砂琴音
ライフセーバー教室では、海の生物を見たり、マリッジットに乗ったり、初めてすることがたくさんあり、すごくよい体験ができました。たくさんの友だち、思い出ができてよかったです。

釜でつながった友情を大切にしたいと思います。



海の生物教室

鋳物印かんづくり

芦屋東小学校6年 江藤正悟
鋳型に文字を彫って、ゴムと固定する物を使って上からスズを流し入れました。そして、数分間待ち、

固まったら上から押して冷たい水に入れて冷ましたあと、文字がうつるまで紙やすりで削ると完成しました。佐野市の人と思い出に残る印かんが作れました。この印かんを年賀状にも使いたいです。



世界に一つだけの印かんづくり

佐野市の友だちとの交流

芦屋小学校6年 林龍之介
お別れ会で記念品交換をしました。僕たちはさのまるのボールペンや目覚まし時計などをもらってうれしかったです。3日間があったという間でした。佐野市の友だちと一緒にいて、とても楽しかったです。今後も手紙などで交流を深めようと思います。



お別れ会での記念品交換



あしやハンズ・オン・キッズでは、町内の小学4年生～6年生までの56人の仲間たちが、「1人はみんなのために、みんなは1人のために」をテーマに、1年間をとおしてさまざまな体験活動にチャレンジしています。

3回の研修を経て、サマーキャンプを開催し、自然体験活動を行いました。



サマーキャンプ in 国立夜須高原青少年自然の家 (8月20日～23日)

2019/08/20

野外クッキング

山鹿小学校4年 仲石優
班の皆と協力しておいしいカレーが作れました。かまど係をしたことがなくて不安だったけど、年上の人たちが教えてくれてちゃんとカレーが作れてうれしかったです。



暑さに負けないぞ！
おいしいカレーにな～れ♥

川あそび

芦屋東小学校5年 釘崎蒼大
川に入る前はとても暑かったけど、川に入ると水が冷たくて気持ち良かったです。川には、メダカやアメンボ、魚がたくさんいました。



五感で自然を感じよう♪

お楽しみレクリエーション

芦屋小学校6年 宮川安梨
シャボン玉づくりでは、身近な物で作ることができて驚きました。久しぶりにやって楽しかったです。班の皆で交流できて良かったです。



シャボン玉あそび♣

木工クラフト

山鹿小学校6年 中島波鈴
世界に1つしかない焼き杉コースターを作りました。木を切るのには時間がかかったけど、きれいにできたので良かったです。



助け合って丸太切り✿

キャンドルナイト

芦屋小学校4年 板井遥生
それぞれの班がとても楽しいことを考えていて、皆が笑顔になっ

ていたので、とても良い経験になりました。おもしろかったり、ドキドキしたりしたゲームであそびたので楽しかったです。



友情を深めたキャンドルナイト★

4日間のふりかえり

山鹿小学校6年 岡本夏都
サマーキャンプをとおして、リーダー力を高めることができたと思うし、班でメリハリをつけることができました。次回も笑顔で協力できる班にしていきたいと思います。



元気いっぱい自由交歓♣

日常生活では体験できないことに触れることで、研修生たちは多くの「気づき・学び」を得ることができたと思います。この3泊4日の経験が日々の生活にいかされ、更なる成長へつながっていくことを願います。